

1. テーマ

生活やビジネスに役立つ経済学・経済政策論の知識の取得。

2. ゼミのねらい・概要

本ゼミでは、2年次までに学んだマクロ・ミクロ経済学を随時復習しながら、我々がより安心して豊かな経済生活を送ることができることを目的とした公的な介入、すなわち経済政策に焦点を当て、その知識や考え方を理解し、今後の生活やビジネスに役立てて貰うことを主眼とする。具体的には、経済政策一般の基礎的な理論を学んだ後、その応用として、産業、農業、労働、社会保障、国際経済等、日本を中心とする実際の主要分野の政策を網羅的に把握し、4年次の「卒業研究」に効果的に繋げていく。一方、テキストの課題に対する回答は勿論、関心のある経済のトピックについて、学生諸君にプレゼンテーションを行って貰う他、担当教員の経験を踏まえて、先進国間でより良い経済・社会政策を追求する国際機関（OECD）の業務内容について知る機会も設ける。また、国内外のニュースを随時共有していくことで、学生諸君が近い将来社会人として活躍する際、急速に変化を遂げる経済の動きに的確に対応できる強靱な生活・ビジネス感覚を強化することも目指す。

3. ゼミ計画（変更の可能性あり）

〈前期 A〉	〈後期 B〉
1. イントロダクション	1. イントロダクション
2. 日本経済の歩みと政策①（経済環境の変化）	2. 農業政策①（グローバル化と農業）
3. 日本経済の歩みと政策②（経済構造の変化）	3. 農業政策②（農業の今後の課題）
4. 経済政策論の基礎①（目的と手段）	4. 環境政策①（公共財としての環境対策）
5. 経済政策論の基礎②（経済政策思想）	5. 環境政策②（環境政策の手段）
6. 社会政策論の基礎①（社会保険と社会保障）	6. 労働政策①（労働市場の特徴）
7. 社会政策論の基礎②（福祉国家体制の構築）	7. 労働政策②（労働政策の効果）
8. マクロ経済政策の基礎①（財政政策）	8. 労働政策③（失業対策）
9. マクロ経済政策の基礎②（金融政策）	9. 社会保障政策①（年金制度）
10. マクロ経済政策の基礎④（経済成長政策）	10. 社会保障政策②（医療・介護制度）
11. ミクロ経済政策の基礎①（政府介入の妥当性）	11. 国際経済政策（貿易・外国為替）
12. ミクロ経済政策の基礎②（市場の失敗）	12. 国際機関（OECD）の基礎知識
13. 産業政策①（産業育成政策）	13. 学生によるプレゼンテーション①（前半）
14. 産業政策②（競争政策と規制）	14. 学生によるプレゼンテーション②（後半）
15. 前期総まとめと知識確認チェック	15. 後期総まとめと知識確認チェック

4. 到達目標

グローバル化された経済の動きに的確に対応できる強靱な生活・ビジネス感覚を養成する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

毎週 60～90 分程度、指定された教科書や資料の箇所を事前に熟読し、それに関する課題の回答を纏めておくことが重要。

6. 成績評価の方法・基準

知識の理解度、議論への参加状況、プレゼンテーションの出来栄等を総合して評価する。

7. テキスト・参考文献

教科書は、柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）『セオリー&プラクティス経済政策』（有斐閣、2100 円＋税）を用いるので、受講生は必ず購入すること。そのほか、補足資料を随時配布する。参考文献は、ゼミの中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

「経済学基礎」を受講済みであること。留学生には、経済学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。